

「一人でも多くの子どもたちが百点を」学級づくりの大作戦

山口市 大達 和彦

百点が取れる学級づくりは4月から

学力研の目指す「百点満点大作戦」は、直面するテストで百点をとることではなく、一年間を通していつもすべての子が百点を目指す意欲と自信に満ちた学級づくりにあります。

そのために先ず学級担任として学級のことどもたちの学力実態を正確に把握すること。「だが、どこで、どのような」つまずきをしているのか、一年から当該学年までのつまずきを一枚のプリントの一覧表として作成するところから始まります。ここでは四年生の算数を例にして展開させていただきます。四年生一学期の第一週に一年から三年までの計算力テストをします。

ポイントは三つ①「2けた3けたまでのくり上がり・くり下がり計算ができていますか」②「かけ算九九を含めて2たけ・3けた×1けたができていますか」③「わり算A

型・B型・C型が正確にできているか」

ここではスピードよりも「正しくできているか」を第一に求めます。スピードは、正確にできればこの後の取り組みで自ずと着いてくるものだからです。

第二週目から毎日十分のスキルアップを

四年生最初の単元は「わり算その1・・・商が2けた・3けたのわり算」になります。

四則計算のすべてが正確にできることが求められます。第2週の最初に取り組むのがたし算」、一枚のプリントの中に①「1けた+1けた」のたし算十問のほかに、②「2けた+2けた」五問、③「3けた+3けた」五問程度を時間を切つていずれの課題にも取り組ませます。次の週は同じようにして「ひき算」に取り組ませます。

計算力は取り組みの量と質を高めていけば全体の底上げはかなり引き上げられます。しかし、その底上げの取り組みにもかか

わらず伸びない子、間違いをくり返す子には別途個別指導が必要となります。

近頃の傾向としてすべての「つまずき」の元が一年のひき算にあることが多々みられます。それも「くり下がり」以前の「合成と分解」だったり「十までのたし算・ひき算」が不十分なことにあったりも少なくありません。一刻も早く手を打たなければなりません。家庭と緊密に連絡を取り、協力も得て一歩ずつ着実に取り組みしつかり励まし、5月末までには克服できるようにしておきたいものです。

つまずき箇所は決まっているかけ算

わり算の「あまりあり」を正確に早く四月の最終週には「かけ算」に取り組みます。「九九」が「二の段から九の段」まで横式になったものをプリントして間違い箇所を把握し該当の子に「 3×7 と 3×9 」でいつも、また「 7×4 と 7×6 」で等、かけ算の「つまずき箇所」は決まっています。2けた3けたにもそのまま反映されています。一枚のプリントに「九九」「2けた×1けた」「3けた×1けた」を網羅し、すべての計算に取り組ませ自信を持たせて

いきます。

わり算A型はできるのに「あまりのあるB型・C型になると極端に遅くなる子も少なくありません。五月の取り組みは「わり算のABC」を順に集中して取り組みませます。B型のつまずきはひき算の暗算ができません。C型のつまずきは「くり下がりの計算」ができないことにつきます。

「割られる数」の下に「わる数×商の積」を書かせ安心してひき算ができるようにサポートします。「無理して暗算することなく、こうして書けばできるでしょう。」と助言し自信をもつて取り組みさせるようにします。
さあ！百点満点大作戦の開始だ！

「わり算①商2けたのわり算」もそろそろ終える頃になります。この単元の学習の間に毎回十分のスキルアップの時間を確保して取り組んだ成果が着実に表れてきます。この後スキルアップの内容も一変します。上段の四問は「64÷2」や「72÷3」、次の段は「246÷2」や「384÷3」、次は「125÷5」や「456÷6」など易から難へ取り組みませます。最後の段は「280÷7」や「213÷7」など「0」に

関わるわり算にも触れるようにします。

間違い直しはその場所で、訂正の確認も

子どもたちに取り組ませる時は、担任も同じプリントを自分で解き途中計算もすべて記入したものを手にして、「どこで、どんなつまずきをしているか。」児童の取り組みの様子を見て回ります。つまずきがあればできるだけその場で取り組みせ、訂正できるものだけ直させます。一斉に集めた後の指導はなかなか目が行き届きません。その場での「間違い直し」が何よりも確かな指導になります。見落とした児童については、後で個別に呼んで指導します。「先生は、きちんと見てくれている。」という安心と信頼を日々の取り組みから積み重ねていきます。

本テストの問題は事前に実際に解いて解答してみます。実施後よくある児童の意外なつまずきを未然に防ぐことができます。つまずきが予想される問題は、毎日取り組みプリントに入れて何回か取り組みさせるようにします。いよいよ本テストとなる前には「類似問題の総合テスト」に取り組みせたり、内容によっては宿題を通して習熟さ

せます。

児童が安心し、自信を持って取り組みむ

学級づくりを・・・今からできること

「みんなの本当の実力をみたいから抜き打ちで」そんなテストの話を耳にすることも少なくありません。これは指導の放棄です。子どもたちの実力は一年を通して毎日心地よく鍛えられ、一歩一歩力が付いていることを実感して初めて大きく伸びていきます。担任は「小数のわり算では、÷2位数の計算力が不可欠である。」「小数のわり算では、あまりは元の位置から、割り進む時には0を付け足す問題」等ポイントとなる指導がいくつもあります。授業の中の確に指導し、児童が「もう大丈夫」そんな笑顔が見られるなかでテストに臨みたいものです。単なるテスト対策ではなく一年を見通して児童の学力の土台となる足腰をしっかり鍛え、算数のテスト前には最小限の取り組みで本番を迎えることができるのがベストです。三学期は一年間のまとめとなります。もう一度「到達度テスト」を行い一から計算力の足腰を鍛えてみませんか。毎日十分の取り組みで大きく変わります。